



イチゴスタジオ代表取締役 柳瀬香織さん

オーダーメイドの看板業者で日本初のグッドデザイン賞を受賞
お客様を「らしく」魅せる看板を提案「店と消費者の出会いを創る」

なでしこ力



柳瀬 香織さん

集客・認知度アップに特化した看板で評判のイチゴスタジオ（名古屋市天白区）。店舗・企業の思いを伝える看板を創り認知度を上げている。グッドデザイン賞受賞から12年、施工実績は500件以上。創業50年の技術と斬新なアイデアで作られた看板は、目と心を引き付ける。唯一無二の看板を作り出す「イチゴスタジオ」の柳瀬香織代表に話を聞いた。

イチゴスタジオの作るものとはにかく目をひく。ユニークでセンス良く、インパクトがあり見る人にワクワク感を与える。グッドデザイン賞を獲得したダンボールハウス（写真①）は、建物全体を段ボール箱に見立ててある。そこが紙業会社の建物というのが一目瞭然だ。

仕事は「四角い看板」にとどまらず、建物外観や壁面すべてを看板にするものや（写真②）、電飾看板や自立看板（写真③）、ビルのご案内板まで幅広い。時には、ロゴ作りからトータルデザインを行い企業のブランディングも行っている。同社の看板設置によって、認知度や売り上げが大幅に伸びることも少なくない。企業の主張や個性が見事に表現されているからだろう。

立体看板にも定評がある。東海エリアで看板を製作ができる会社はわずかで、土台となる鉄工から立体看板の設置までを自社でできるのも同社の強み。ケーキの立体オブジェ（写真④）を駐車場に設置したり、焼き肉店の看板に立体的な牛を使うなどで、話題となり集客の一助になった。

しかしどうすれば、これほど魅力的な看板が

できるのだろうか。「取材でクライアントのルーツやビジョンに耳を傾け、相手の側に立って世界を見ることがと現地の状況を理解すれば、必要な表現は自然と出てきます。お客様の側にデザインがあるので、アイデアに困ったことは無いんです」…柳瀬さんは才能あふれるデザイナーであり、職人であり、経営者でもあるのだ。

同社の仕事は、多くの仕入れ先や協力業者と連携しながら行っている。企業からの依頼を受けると、打ち合わせを行いながら信頼関係を築き、イメージを膨らませて企業の「らしさ」を表現するデザインを起こして企業に提案、様々な手法・技術を使い形にして完成させ設置する



ダンボールハウスでグッドデザイン賞を受賞（写真①）